

医療機関トレーサビリティ（美代班）・令和3年度第5回班会議 議事録

- 日時：2021年12月16日（木） 13：30～14：40
- 場所：国立国際医療研究センター 研修棟4階セミナー室3,4 ※WEB会議併用
- 出席者（敬称略）：美代賢吾（NCGM）、稲場彩紀（GS1）、植村康一（GS1）、折井孝男（NTT）、笠松眞吾（福井大）、高橋弘充（東京医科歯科大）、高本真弥（NCGM）、藤田英雄（自治医大）、渡邊勝（宮城県立こども病院）、島井健一郎（厚労省）

- オブザーバ参加団体（敬称略）：C-CAM（石川廣）、医機連（大畑卓也）、MTJAPAN（原山秀一）、@MD-Net（田村雄一郎）、JAHID（富木隆夫）、日本SPD協議会（菊地公明、武内昌平）、JAISA（白石裕雄）、AMDD（河合誠雄、鈴木志都子）、JAHIS（新垣淑仁、友澤洋史、後藤孝周）

- ライブ配信による傍聴者 13名

議事詳細：

1. バーコードリーダー比較検証の報告（美代）

リーダーの性能評価が医療材料・医薬品ともに完了した。結果として、使いやすさは読取り時間との相関関係がみられた。一方、価格との相関関係はそれほどみられなかった。ただし、今回の検証で使用したリーダーはJAISAに加盟しているメーカーの機種であり、ノンブランド品や不明メーカーの格安品は検証していないため注意が必要。

医薬品の場合印字素材のバリエーションが多く、特に製品包装の素材やそれによる光の反射などの条件により、製品・リーダーの組み合わせによっては読取りにくいものがあった。

医療材料と医薬品で評価が高い機種が異なった。医療材料は机上で読取り作業をしやすいもの、医薬品は製品を手で持ち上げて読むことから、比較的取り回しのいい機種の評価が高くなったものと考えられる。使用環境も加味して購入機種を検討したほうがよい旨を手順書に記載する予定である。また、医療材料では誤った規格のバーコード表示も散見されたため、業界内での正しい表示方法の周知が必要だと考えられる。

【コメント】

・読取りと同時に、対象製品の検証も行っている。中にはグレードが一定に満たないものも有った。（白石）

→例えば点滴バッグについては、中身が無い状態で検査されている可能性が高いとのことであった。薬液などの中身をバッグに入れるとグレードが下がることがあるようである。この点については医薬品メーカーへも周知していきたい。（美代）

・今回の検証では、現場に近いシチュエーションを作っても順調に読取りが進んだが、実際の現場だともう少しバーコードの場所を探すのに時間がかかるなど、スムーズに進まないと思われる。ただ、全体的な結果としては医薬品のバーコードは十分使えるだろうということが分かったことと、利用シーンによる機器の使い分けが必要だということが分かった。（折井）

・現場では三点認証を行うため、製品のバーコードだけではなく、患者のリストバンドや処方箋のバーコードを読む必要があり、そのような中でもどのように使い分けするかが今後の課題である。この点、種類や使い分けの例を手順書内で提示することは非常に重要だと考える。また、取り回しという点ではワイヤレスの機種が比較的使いやすいが、一方で充電が切れると使えないというデメリットもある。（高橋）

→確かに検証でも、医薬品においてはワイヤレスの機種の評価が高い傾向にあった。機器自体の仕様として、充電がどの位持つのか、調べられるか確認する。（美代）

・リーダーは貸し出し可能である。希望があればご連絡いただきたい。（美代）

2. その他の進捗状況

【電子カルテの登録画面調査】（美代）

先生方に協力いただく方向で調整中。

【海外の状況調査】（美代・植村）

今年度も海外視察は難しい状況であることを鑑み、1月にオンライン国際会議を開催し、GS1 本部の担当者に講演をお願いする方向で調整中。特定の国の事例紹介というよりは、GS1 本部で把握している各国の状況を共有いただく予定。詳細の内容はこれから詰める。

【RFID 標準化に向けた取組み】（美代・河合）

AMDDをはじめ関係団体と協議を進めている。また、NCGM では各社が貼付している RFID の読取りテストも行っている。

タグに期限情報やロット番号を書き込むにあたっては、パケットオブジェクトという特殊な方式を利用しているが、そのデコードツールを開発できるかどうかを検討中。もし提供できれば、各医療機関でタグから GTIN のみならず、期限情報やロット番号なども取得することが出来るので、非常に有益である。

【医療情報学連合大会でのシンポジウム開催】（美代）

多くの人に参加をしていただき、無事終了した。この他、スイーツセミナーでも NCGM におけるバーコード、RFID 活用への取組みを紹介した。

【手順書作成について】（美代）

・各委員・オブザーバの先生方に執筆を依頼する。

・ユースケースについては、執筆内容を細かく指定することはしないが、以前調査いただいた、各医療機関でのバーコード活用場面のリストの中から、担当の先生方で適切な例を選んでまとめていただきたい。

・導入仕様書の書き方の解説については、美代が原案を作成し、委員・オブザーバに回覧する予定。

・業界の取組みについては、折井先生協力のもと日薬連にも追加で執筆依頼した。各団体から提出が進んでいる。

3. 今後の予定

・手順書の原稿については1月下旬までに執筆をお願いしたい（別資料および本日の会議で

の確認内容に基づき、正式依頼予定)。

- ・次回は1月に開催。進捗の確認実施後、GS1 本部の講演を行う予定。

以上